

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	地域の中での暮らしという事に関しての、文章化が未だなので、今後、検討していきたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	保育園児の慰問は大変好評でした。今後の交流も希望して下さっているので、交流が深めていけるようにしたいです。また、今後、もっと地域の方々との交流がしていけるよう、情報を集めて行きたいと考えています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	昨年、運営推進会議への案内をした際、地元警察の方から、地域の認知症で介護を必要とする、高齢者の受け入れのご質問があり、いつでもご相談くださるよう、お話をさせていただきました。また、地域の方、家族様より、認知症や介護の相談がある場合は、その都度お答えさせていただいています。	○	今後入居者様の暮らしを支えつつ、もっと地域貢献できる術がないか考え、取り組んでいければと考えています。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフ会議を開催し、評価について考える機会を設けました。また、外部評価後、改善点や、継続していきたい事を、独自にまとめ、スタッフに配布し、また、すぐに改善すべき点は、スタッフに申し伝え、改善策を出し、取り組みました。また、外部評価結果も全員が目を通すようにしました。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年の外部評価後から、まだ、2回の開催です。入退居状況の報告、また、日々の暮らし、事故報告、入院の状況、など報告し、意見をもらうようにしました。	○	開催回数がふやしていけるよう努めたいです。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	第1回目の運営推進会議開催時、市町村担当者の方へ案内したところ、未だ取り決めがなかったようで、不参加でした。市からの要請で介護相談員の受け入れをしていますので、年2回報告会が開催され、担当者の方が来て下さり、問題解決にむけて、協議して下さいます。また、運営推進会議への参加の返事も頂け、第2回にはご参加下さいました。又、介護に関する催しへの案内もして下さいますので、参加可能な職員は参加するように促しています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度を受けられている方が1名いらっしゃいます。受けられている入居者様のカルテ内に、決定事項の書類をはさみ、介護職員全員が目を通せるようにしています。ただ、介護職員全員が、権利擁護に関する制度を充分理解できているとは、いえません。	○	今後スタッフ会議の議題に取り上げ、勉強していく予定に考えています。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議の議題として、虐待と抑制について、勉強会と、話し合いを行いました。どのようなことが、虐待にあたるのか、また、抑制に当たるのかを、文献から抜粋して、勉強しました。また、24時間を通して施設内に、一人しかいない時間は全くなく、夜勤も、平屋なので、ユニット間の動きがよく把握でき、お互いに虐待防止に、注意しあえる環境下にあります。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約と解除について、重要事項説明書と契約書をもとに、説明を行い、ご家族様にご理解と、同意を得た上で入居して頂いています。上記の文書は2部作成し、入居者様側がいつでも閲覧出来るよう、1部をお渡ししています。施設内にも、玄関の所に誰でも閲覧できるように、文書を設置しています。質問があった場合後日であっても必ず説明するようにしています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部の介護相談員2名の方を月に二回受け入れ、入居者様の相談を聞いて下さり、報告会で出された改善点について、迅速に対応出来るよう、努めています。また、意見箱の設置をしています。基本的に希望がある時は遠慮せず話してもらえるよう伝えています。本人から、家族様に希望を伝えた時は遠慮せず、言って頂けるように話しています。職員からも何か希望がないかさりげなく伺うようにしています。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	請求書に通信欄を設け、日頃の様子を伝えると共に、3ヶ月毎のこすもす便りの発行で行事のお知らせ・職員の異動・新職員紹介を行っています。又、3ヶ月毎の連絡表の発行で入居者様の暮らしぶり・気になる事・身体状況の報告を行い、又、家族様にも返事として、介護の希望や、要望を記入し提出して頂くようにしています。金銭の出納も、請求書を渡す時に領収書を返却し、小遣い帳にサインを頂きます。県外のご家族様には、小遣い帳をコピーして送り、受取書にサインして、返送して頂きます。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	まず、施設外苦情受け付けとして、重要事項説明書に国民健康保険団体連合会の連絡先を明記し、説明時に案内させて頂いています。また、意見箱の設置、連絡表の発行をして、気兼ねなく希望を表して頂けるように配慮しています。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1度、必ず今課題となっている事柄を議題とし、スタッフ会議を行ってきました。入居者様の増加により、業務内容も、皆で話し合い検討してきました。職員側からだけの視点ではなく、入居者様からみて、必要であると考えられる事は、職員にも理解を求め継続しています。又、スタッフ会議の内容は、ノートや文書にし、職員全員が目を通せるようにしています。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	平成17年度に開所されましたが、その都度入居者様の状態に合わせて、出勤形態をとってきました。認知症の周辺症状が明らかの方が居るときは、その方が、落ち着かれるまで、遅出の時間をずらす等、職員が一人で居る時間を短くして、入眠前に入居者様に対応できるようにつとめてきました。今後もその都度検討していく予定です。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者様、ご家族様との信頼関係は、重要だと考えます。普段から、風ユニットの職員同士とも行き来するようにして、異動しても入居者様に顔を覚えて頂けるよう、お声をかけたり、風ユニットへ散歩したり、レクリエーションを合同で行っています。また、家族様の面会があった時は、馴染みの関係が作れるよう、職員から、お声をかけるようにしています。また、入居者様に負担が起きないように、職員の入れ替えがあった時は、もう一人業務につくようにして引き継ぎが出来るように努めています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○	他施設への見学などに行く機会が、まだまだ少ないので、今後考えていきたいです。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、入居を前提として、説明するのではなく、これまでの、介護の様子や相談に至った経緯、また今何を一番必要としているのか、今後の家庭への復帰の事も含めてさりげなく、ゆっくり話を聞き、総合して対応できるように話し合うようにしています。第1回の相談だけでなく、入居に至るまで、何度も連絡し合う事もあります。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	一番は、本人様の安心と、納得を考えています。まずは、見学に来て、納得してから入所を勧めています。場合によっては、初めから、入居ではなく、体験入所して頂き、本人様の様子や思いが把握できてからの入所となるようにしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員にも人生の先輩として、尊敬の念と優しさを持って接するように普段から話しています。共に喜び、また家族のように心配する声も職員からも聞かれる事があります。職員も入居者様から学び、支え合う関係作りに努力してくれています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員には、管理者や、ケアマネだけでなく、常に入居者様について家族様と、話しをしていくように勧めています。家族様への連絡も、職員に積極的にしてもらっています。日々の情報を家族様と共有し助け合いながら、本人様にとってより良い介護を日々模索しています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族様、入居者様の状態に応じて、外出・外泊・面会・電話・手紙など、少しでも本人様との関わりを持って頂けるように勧めています。普段から、本人様の様子を家族様に伝え、思いのずれがないように、質問があったときには、説明し家族との関係が変わらずもてるように努めています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居されても、本人様からの通信手段がとぎれないよう、希望のある方は電話や手紙での連絡を取り持っています。居室に設置している方もいます。本人様が、面会したい親戚や知人がある時は、ご家族様と話し合い出来る限り希望にそえるように努めています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	認知症症状による妄想や、男女間の考えの違いから、時には思いがぶつかりますが、その都度職員が間に立ち関係修復に努めてきました。自ら進んで、職員の変わりに仲裁役を買って出て下さる方もいらして、入居者様達にも話を伺うと、ご自分で折り合いをつけようとして努力されています。普段あまり話していない方でも入院や病気で姿が見えない時は一緒に心配して下さり、また帰ってくるとよかったと言って下さる場面がよくあります。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院先に職員がお見舞いに行ったり、家族様に様子をお伺いする事があります。いつも退所されるときには、いつでも遊びに来て頂けるように話したり、困ったことがある時は相談に来て下さいとお声をかけています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中から、お声をかけ些細な心配事であっても申し送りを大切にし職員間で情報を共有する事で、本人様の不安や悩みが見えてきます。スタッフ会議で話し合ったり、ご家族様にも協力して頂き、思いを聞いて頂いたり、説明して頂く事で、本人様の悩みが解決出来るように努めています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前から、介護保険を利用している方は、前施設から情報を頂いたり、介護する上で、情報を収集する事が大切な事を説明し、家族様、本人様からバックグラウンドの聞き取りをして、把握していくようにしています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日中だけでなく夜間を通して入居者様一人ひとりの状況把握ができるように、2ユニット同時に集まり、出勤者全員で申し送り参加をしています。また、申し送りノートも作成し入居者様の状態を職員全員が把握できるよう、出勤時には目を通すようにしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人様、家族様には日々の話の中で希望していることが把握できるようにしています。毎朝の申し送り、毎月のスタッフ会議、サービス担当者会議、週1回の往診などを通して、医師や介護職員からも、本人の希望や、課題を把握し計画に反映できるようにしています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化のあった時は、その都度、介護の見直しを考えてとりにくんですが、あまり状態が変わらない方でも、計画が、もっと見直せるようにつとめたいです。	○	あまり大きな変化や希望が変わらない方も、もっと計画の見直しをしていきたいです。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルの作成により、経過の観察が出来るようにしています。本人様、家族様から、希望や心に残るエピソード、気になる行動や課題がある時は必ず記載しておくようにしています。また、それを基に、介護計画に役立てています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人様、家族様の希望により、特別な場合を除いて、医療連携体制であるので、入居者様にとって負担となる受診や、入院の回避、早期退院での受け入れ、医療処置をうけながらの生活の継続も支援してきました。また、職員と家族様の了解の下、外出支援も可能な範囲で行っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	毎年の消防訓練や、運営推進会議への参加呼びかけにより、協力をお願いしています。また、市役所の方から、ボランティアの紹介もいただいたり、保育園児の慰問にも来て頂きました。	○	地域的な連携がまだ、あまりないのでもっと働きかけていきたいです。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人様、家族様の希望により、グループホームでの生活が継続できるよう、医療機関などを通じて、在宅酸素療法が受けられるように支援しています。サービス事業者の方ともその都度、問題点をお伝えし説明して頂いたり、安全な暮らしができるように支援しています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	まだ、運営推進会議は、2回の開催ですが、地域包括支援センターから、参加して下さっています。	○	今後、もっと定期的な運営推進会議の開催を行い、地域包括支援センターとの関係強化に努めたいです。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、必ず本人様、ご家族様の希望のかかりつけ医をお伺いし希望に添えるようにしています。協力医以外への必要な受診や、通院は、基本的に家族様に協力頂いていますが、場合に応じて、本人様、家族様同意の下、職員が付き添いを代行しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	スタッフ会議時に、言葉かけや、本人様のプライバシーに配慮した介護、個人情報の取り扱いが行えるように勉強会を行うと共に、日々の介護が振り返られるように、議題内容を考えて行っています。また、問題があると思われるときは、その都度職員に注意をうながしています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者様それぞれに合わせた、声かけ、配慮をしています。希望や身体状況により、メニューを変更したり、おやつの際に飲み物を選んでもらっています。また、いつもの日課を忘れておられるときはさりげなくお伝えするように支援しています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の日課はありますが、入居者様の精神、身体状態に合わせて、支援するようにしています。また、個別に必要な買い物、散歩、畑作り、リハビリへの送迎など、支援しています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	更衣時には、ご自分の希望を聞いて選んでもらうように働きかけたり、本人様が忘れているときは、基礎化粧品や、お化粧品など声かけしたり、見守りして必要であれば一緒に手伝うようにしています。また、希望があれば、今までの馴染みの理美容院へ、行けるようご家族様の協力を得るようにしています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人様の意向を聞いて、メニューの参考としています。個別に嗜好調査も全員に行っているため、2種類のメニューを作る事もあります。一緒に野菜を菜園で収穫したり、手伝ってもらいながら、お好み焼きや焼きそばを、ホットプレートで焼いて食べます。また、今年は、梅干しづくりを一緒に行いました。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居以来、毎晩の晩酌を楽しみにしている方がいます。また、入居者様の状態に合わせて、おやつを管理しています。基本的には、本人様の今までの嗜好品を楽しめるように、本人様、家族様と話し合いながら、支援しています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	本人様の排泄パターンを知る為に、独自の排泄チェック表に基づき、個別に合わせた、トイレ誘導を行っています。また、随時、外出や、時間帯に合わせてオムツの形態を変えたり、おむつの使い方の見直しを行っています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、最低3日に一度の入浴を勧めています。16時までの入浴時間で、希望時には、誰でも毎日入浴出来る体制にしていますが、時間はこの限りではありません。入浴を嫌がる方もいらっしゃいますが、その都度、個別に合わせた言葉かけや、家族様の協力を得たり、よりよい方法を模索しながら、対応しています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間不眠のある入居者様は、基本的には日中の活動を促し、生活リズムが整うように支援していますが、本人様の状態に合わせて、入浴や足浴を試みたり、不眠時に暖かい飲み物や、軽食をとるなど支援しています。薬剤の使用は最低限度に押さえるよう、随時検討をしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りや、畑作り、梅干し作り、生け花、お茶、折り紙など入居者様の経験や得意分野を活かして、その力を発揮できる場面を設けています。また、それを掲示するなどして、本人様に喜びを持って頂いています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、トラブルの元となるので、事務所での預かりを勧めています。本人様、家族様から強い希望がある場合、双方納得の上でご自分で、お財布を持って頂くこともあります。また、買い物時には、本人様にお金をお渡しし、買い物の喜びを感じられるように働きかけています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候や、本人様の状態に合わせて散歩・買い物・ドライブ・戸外でおやつを食べる・喫茶店に行くなど、支援しています。	○	時間的な余裕のある時に外出に限られることもあるので、すべての方に、解放感が持てるような、取り組みをもっと考えていきたいです。今後、外食の支援も考えていきたいです。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節毎にお花見や、ボランティアの阿波踊り見学、花火観賞なども支援していますが、本人から、帰郷やお墓参り、法事、お見舞い、親戚・知人に会いたいなどの強い希望があった時は実現のため、職員の支援で困難な時は、家族様の協力を得て出来る限り本人様の希望に添えるよう話しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居されても、本人様からの通信手段がとぎれないよう、希望のある方は電話や手紙での連絡を取り持っています。暑中見舞いや年賀状など、本人様に名前だけでも、本人様に記入してもらったり、思いを伺い代筆するようになっています。電話に関する苦情のある場合でも、ご家族様に説明し、ご理解頂くように話し合いを持つようになっています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族様や、知人の方が今まで通り、変わらず気兼ねなく本人様と面会して頂けるよう、訪問、外出、外泊、面会時間の指定をせず、いつでも受け入れるようになっています。また、居室などでゆったり面会できるように配慮しています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護や、身体拘束に関する勉強会を行っています。事あるごとに、抑制と見なされるような行為かどうかを検討し、身体拘束のない介護に取り組んでいます。また、身体拘束に当たる行為を事務所に掲示しています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵をかけないように、解放された生活に取り組んでいます。その為、入居時や、見学時にその旨を伝えるようにしています。また、強い外出の希望のある方は、ただ止めるだけでなく、さりげなく一緒について行ったり、家族様の協力も得ながら、自由な暮らしに近づけるよう支援している。	○	時間的な余裕のある時に外出が限られることもあるので、すべての方に、解放感が持てるような、取り組みをもっと考えていきたいです。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	独自の巡視チェック表を基に、リビングに集まる時間以外に、入居者様の安全の為、所在確認を行っています。また、居室におられるときは、頻回に訪室するように職員に促しています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁・洗剤の保管、はさみの所持など、入居者様の状態に合わせて検討しています。状況に合わせて、子どもはさみを持っていただいたりしています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のヒヤリハット、事故報告書の記録をし、全員で閲覧したり、同一人物の事故報告について統計を取り、時間や原因の検討をし、事故を防ぐように、話し合いをしています。誤薬を防ぐため、院外処方を取り入れ、薬剤師によるチェックが出来るように今年から変更しました。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応マニュアルを作っております。入退院マニュアルも、事務所に掲示しています。また、院長による応急手当講習会の実施を勉強会で行いました。普段から、管理者、ケアマネだけでなく、介護職員が往診係や、医師に状態報告し、指示をもらうようにして、報告がスムーズに行えるようにしています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、避難訓練、通報訓練、消化器の使い方、避難経路の確認の訓練を行っています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	解放された生活に取り組んでいます。日中(20時まで)鍵をかけていないので、入居時や、見学時にその旨を伝えるようにしています。また、強い外出の希望のある方は、家族様の協力も得ながら、自由な暮らしに近づけるよう支援している。その都度、何度もご家族様と話すようにしています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段から、管理者、ケアマネだけでなく、介護職員が往診係や、医師に状態報告し、指示をもらうようにして、報告がスムーズに行えるようにしています。また、小さな気付きも、医師より気兼ねなく報告し相談すること、申し送られているので状況に応じて、診察や、往診が受けられるように対応しています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方ファイルを作成しております。また、すべての職員が服薬介助から、長く遠ざかる事がないように分担を決めています。また、普段から、往診係や、服薬管理も介護職員全員で携われるようにし、薬剤名に慣れるような取り組みをしています。また、協力医だけでなく、院外処方を取り入れることで、薬剤師とも連携がとれ、細かな事も相談ができるようになりました。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便パターンを個々に把握するようにしています。医師への相談だけでなく、自然排便があるように、散歩したり、おなかを入浴で温めたり、排泄時にマッサージしたり、繊維質の多い食物や、乳製品を取り摂取出来るように促しています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	真食後の口腔ケアを行っています。歯磨きチェックの記入もしています。また、口腔ケアの重要性を歯科医師を招き講習会を開き勉強しました。また、個別に、入居者様の状態に合わせた、歯磨きの手伝いをしています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に、一日の食事量と水分摂取量のチェックをしています。また、状態に合わせて、高カロリー補助食を利用しています。基本的に介護職員が献立を考えていますが、協力医の栄養士からアドバイス頂いたり、他施設の献立表を分けて頂き参考にしています。また、栄養士の指導を受け、カロリーに関する勉強会も開きました。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルが作成しており、手洗いうがいを職員に促しています。排泄介助用のエプロンもトイレ内に設置しています。感染症について、勉強会も行っています。また、タオルではなくペーパータオルの使用をしています。入居者様には、インフルエンザ、肺炎球菌の予防接種を勧めると共に、職員も全員インフルエンザ予防接種を行っています。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒対策のため、食器を毎食ハイターに浸したり、乾燥機にかけています。また、毎晩、調理器周りをハイターで拭き、まな板も消毒しています。また、包丁とまな板を食材により区別したり、調理時に手袋を使用しています。また、手洗いうがいを職員に促しています。また、一週間に2回の買い出しと魚は、新鮮なものを朝届けてもらい新鮮で安全な食材を使用するようにしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るく家庭的な雰囲気になるように、玄関周りに花や木を植えたり、玄関に花を飾るなど、季節感がでるようにも配慮しています。又、門扉を作らず、いつでも入って来て頂けるようにしています。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日光の差し具合により、カーテンや、ロールスクリーンの開け閉めをしています。また、照明もつけたり消したりして、明るさを調節しています。テレビやBGMの音も大きすぎないか、不快でないか、また、聞こえる大ききさなのかを確かめてから調節しています。また、必要に応じて食卓に庭の花を飾り、季節感を出すようにしています。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内のリビングにある畳のスペースに冬にはこたつを置いたり、施設的でなく極端に華美な物は避け、家庭にあるような共有のソファやイスを設置しいつでも自由な場所で思い思いに過ごせるような空間を設けています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、極力買いそろえるのではなく、使い慣れた服や、物を持ってきて頂けるように説明しています。また、大切にしていた物も可能であるなら、持って来て頂き、本人制作の絵や、書、写真など、掲示し居心地よく過ごしていただけるように工夫しています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	排泄時の喚起や、居間には温湿度計を置き、室温に注意しています。個別に合わせた温度調整に心がけています。必要な方には、除湿器や、加湿器も用途に合わせて設置しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレが分からない方への配慮として、目線に配慮し「トイレ」「便所」と表示したり、居室の分からない方に対して、紙花をつけるなど配慮しています。施設は平屋で段差もなく、必要場所に手すりの設置をするなど、自立に向けた工夫をその都度しています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ご自宅や以前の生活空間と勘違いされ、時に不安定となる方もいらっしゃいますが、混乱を放っておかず、その都度話を聞き生活できるようにしています。また、個別にトイレや洗面台、風呂場の使い方など、慣れて頂くまで、根気強く働きかけ、見守りや、少しの介助で、出来る限り自立した生活が送っていただけるように努めています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	テラスには、日向ぼっこができるように、机や、ベンチの設置をし、お茶会や、歌会を開いています。また、場合によって、洗濯干しを置き、入居者様と一緒に洗濯干しや取り込みができるようにも活用しています。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

広い庭と菜園を利用した、野菜作りや収穫際、ガーデニングなどで、楽しみと役割を入居者様にもっていただけること。また、施設の都合ではなく、入居者様の思いを大切にしながら、家族様、知人の方との関係が変わらず持つて頂けるように仲立ちし、365日24時間訪問・外出（付き添いあれば）可能という形をとっています。入居者様には、生活リハビリを取り入れながら、毎日楽しく、個別にゆったりと、生活できるよう努めています。スタッフには、資格取得を奨励しているので、定期的な勉強会や、研修に行けるように、配慮しています。また、医療連携体制をとっているため日常の健康管理が24時間体制で協力医が行ってくれ、安心の医療が提供できます。